

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 1

①プロジェクト タイトル	障がいの有無に関わらず、その人の夢に寄り添う。職業支援の場開設
②実行者名	笹崎 典子 (福祉事業まるまるプラザ代表)
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/piecelab2020">https://readyfor.jp/projects/piecelab2020</a>
④目標金額	240万円 (クラウドファンディング：120万円、マッチングギフト：120万円)
⑤公開期間	11月13日(水)～12月26日(木) 23時 (43日間)
⑥資金使途	物件の設備投資等
⑦活動場所	長野県



⑧プロジェクト 概要	<p>本プロジェクトは、障がいをお持ちの方お一人お一人の特性を活かした就労マッチング支援を行うコワーキングスペース「pieceLab（2020年4月 長野県松本市にオープン予定）」立ち上げに向けた開業資金を募るプロジェクトです。</p> <p>コワーキングスペースには専門スタッフが常駐し、支援希望者にはヒアリングを実施。ヒアリング結果を元に、piece Labが独自に築いたネットワークを使い、個人の想いやケイパビリティに合った職場を紹介することで、障がい者雇用の現場におけるミスマッチを防ぐとともに、障がい者雇用の促進を目指します。</p> <p>なお、現在長野県では、引きこもりと呼ばれる状態にある方々が2万人以上いると言われており、将来的には、障がいの有無に関わらず、様々な理由から生きづらさを抱えている方々を対象としたサポート拡充も視野に入れて活動を行う予定です。</p>
【採択理由】	障がい者雇用の状況は改善しつつありますが、障がい者の適性や本人の夢や希望をかなえる形での就労はなかなか難しいと思います。本事業によって障がい者本人が希望する仕事に就く、または開業するなど、職業選択の幅が広がり、イキイキと働けるようになることを期待しています。

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 2

①プロジェクト タイトル	日本一の産地の使命。江戸から令和へ。和傘文化の後継者を繋げ！	
②実行者名	岐阜市和傘振興会	
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/gifuwagasa">https://readyfor.jp/projects/gifuwagasa</a>	
④目標金額	500万円 (クラウドファンディング：250万円、マッチングギフト：250万円)	
⑤公開期間	11月13日（水）～2020年1月24日（金）23時（72日間）	
⑥資金使途	育成プログラム構築 運用費用（人件費 後継者活動支援金含む）など	
⑦活動場所	岐阜県	
⑧プロジェクト 概要	<p>和傘生産量日本一、国内で流通する和傘のおよそ7割を担う岐阜県岐阜市。和傘には「傘骨」と「傘ろくろ」という必須の部品があり、その製造を担うのは伝統技術を受け継いだ職人たちです。しかし、衰退する和傘産業では後継者不足問題は深刻で、現在、傘骨職人は2名、傘ろくろ職人は1名のみ、それぞれ86歳と69歳という高齢のため、一刻も早い後継者の確保と育成が必要とされています。</p> <p>そこで、岐阜市和傘振興会では、本プロジェクトを通して、後継者育成プログラムの構築と運用を目指します。育成プログラムでは、まず「傘骨」と「傘ろくろ」双方で希望者を公募し選考を実施。2～3名程度まで候補者の絞り込みを行った後、原材料の調達といった現場でのフィールドワークおよび記述試験と面談を行い、それぞれ合格者1名を選定。1年間カリキュラムに応じた研修を行います（プログラム自体は3年間のカリキュラム構成です）。研修期間中、受講者には当団体より後継者活動支援金が支給されます。</p> <p>※補欠通過者として、2名程度確保予定。万が一、はじめの候補者が修行を継続できない等の事情が発生した場合、補欠合格者を繰り上げ合格として引き続きの研修費用として補填予定です。 ※職人育成期間は、1年間で完了するものではなく、一人立ちまで5年程度を見込んでいます。その期間の活動資金に関しては、自己資金等で補填予定です。</p> <p>今後育成のメドがついたタイミングでは、技術的革新にも力を入れながら、機械のアップデートなどによる効率化・収益性アップなど産業全体のアップデートを図る計画も検討中です。</p>	
【採択理由】	<p>伝統産業の衰退や職人の高齢化などの社会課題の解決を目指す取り組みです。各地において、伝統産業だけでなく農業など幅広い分野で同様な課題が見られるので、1つの成功モデルとなることを期待しています。</p>	

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 3

①プロジェクト タイトル	純国産天然榊で挑む村おこし！～産業化に向けた実証実験始動へ～	
②実行者名	安江 章吉 (一般社団法人山に生きる会)	
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/higashishirakawamura">https://readyfor.jp/projects/higashishirakawamura</a>	
④目標金額	200万円 (クラウドファンディング：100万円、マッチングギフト：100万円)	
⑤公開期間	11月13日(水)～12月26日(木) 23時 (43日間)	
⑥資金使途	榊の実証実験費用 など	
⑦活動場所	岐阜県	
⑧プロジェクト 概要	<p>森林所有者の高齢化と後継者不足などにより進む森林荒廃問題。東白川村ではその解決策の一つとして、8年程前から林内に放置してある間伐材を活用した「薪産業」を始動し、2年前からは一般社団法人山に生きる会が立ち上がり、順調に資源活用の道を切り拓いています。その次なる道として目をつけたのが、天然の「榊」です。</p> <p>天然の榊は価値も高く大きな利益を生むと考えられるため、量産化・産業化を目指して、本プロジェクトでは、榊の活用方法の検討と実証実験等（自生場所の調査・保護を含む）を行います。</p> <p>集めた資金は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル圃場での植栽（維持・管理）費用、1年間分</li> <li>・自生する榊の量や栽培方法などに関する調査費用、1年間分</li> <li>・生産者育成を目的としたマニュアル作成費用 に充てる予定です。</li> </ul> <p>※なお、植栽から収穫までには4年程度かかることが見込まれており、継続した維持・管理に関しては、会社全体の剰余金及び借入金等による補填を検討中です。</p>	
【採択理由】	山林所有者の後継者不足による森林荒廃は、山地の崩壊や風水害被害につながる恐れがあり、環境保護につながる取り組みと言えます。また、「榊」事業によって高齢者の雇用促進につながることも期待しています。	

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 4

①プロジェクト タイトル	社会的弱者支援の場構築へ。市民参加型和太鼓サークル本格 始動！
②実行者名	社会福祉法人慶成会
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/keiseikai">https://readyfor.jp/projects/keiseikai</a>
④目標金額	400万円 (クラウドファンディング：200万円、マッチングギフト：200万円)
⑤公開期間	11月13日（水）～12月26日（木）23時（43日間）
⑥資金使途	和太鼓サークル運営費用 など
⑦活動場所	静岡県



⑧プロジェクト 概要	<p>社会福祉法人 慶成会では、これまで「福祉村構想」の元、地域に点在する社会的弱者の方々など福祉を必要としているの方々へのサポートとして、特別養護老人ホーム、経費老人ホーム、デイサービス、看護所規模居宅介護、訪問看護ステーション、認知症対応型グループホーム、低額無料診療所、保育園などを展開してきました。</p> <p>本プロジェクトでは、これまでサポート行ってきた方々をはじめ、LGBTや来日外国人など、いまだサポートの行き届いていない方々とも新たな接点を作るべく、世代を問わず、多くの方々が参加をしやすいコンテンツとして和太鼓を選択。地域住民参加型和太鼓サークルの本格的立ち上げを目指します。</p> <p>サークル活動は、週3～4回、午前・夕方の二回実施を予定。現在、50名程度の職員で構成されているところ、今後は回覧板での情報拡散や慶成会が築いたネットワークを元に幅広い層の方々へ声がけを行い、参加者を拡大する予定です。</p> <p>支援の行き届かない社会的弱者へのセーフティネット構築に向かい、集めた資金は、本格的な和太鼓サークル運営に向けた活動費用（和太鼓購入費用）として使用します。</p>
---------------	--

【採択理由】	社会福祉法人を運営されている実行者さまが中心となり、地域の健康増進とともに、高齢者の方や来日外国人の方など幅広い方が参加できる新たなコミュニティを創出する取り組みである点に注目しました。
--------	---

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 5

①プロジェクト タイトル	最期まで自分らしく。大切なものを諦めない、対話カード開発へ
②実行者名	川村 真妃 (NPO法人 幸ハウス)
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/sachihouse414card">https://readyfor.jp/projects/sachihouse414card</a>
④目標金額	100万円 (クラウドファンディング：50万円、マッチングギフト：50万円)
⑤公開期間	11月13日（水）～12月26日（木）23時（43日間）
⑥資金使途	カード制作費用 など
⑦活動場所	静岡県
⑧プロジェクト 概要	<p>NPO法人 幸ハウスでは、がん患者さんの心に寄り添うケアを行うなかで、死生観に対する相互理解の不足と少しのミスコミュニケーションがのちに大きな後悔を残す現状を目の当たりにしてきました。</p> <p>そこで、2人に1人ががんになると言われ、超高齢化社会を迎えている今だからこそ、患者さんが本当に望む治療など『「死」を日常的に話し合えるきっかけがあったら』と思い、誰もが自然とお互いの死生観を語り合い理解し合える対話サポートツールとして、「414（良い死）カード」を企画。本プロジェクトを立ち上げました。</p> <p>414カードは、48枚のテーマカードとそれらのテーマを掘り下げる48個の質問を用意。カードをきっかけに、対話を重ねることで、タブー視される傾向にある「死」について互いに理解を深めます。</p> <p>現在は、テーマの洗い出しと質問事項の洗い出し、カードのデザインが完了しており、今後は、言葉や表現の精査を行いながら、集めた資金を元に、β版を製作。完成したプロダクトを医療関係者や従事者、患者さん、地域のサポーターの方々へ無償で配布等を行い、フィードバックを収集し本格化に向けて改良を重ねていく予定です。</p>
【採択理由】	患者と家族間のコミュニケーションを円滑にするツールの必要性は、これまで当該NPOさまが医療現場において患者に寄り添ってきたからこそ、生まれたアイデアであり、高齢化や核家族化が進む日本においては、今後一層必要性が増す取り組みであると思っております。



READYFOR SDGs × 中部電力

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 6

①プロジェクト タイトル	人と空き家を物語で繋げる。「さかさま不動産」の挑戦
②実行者名	水谷岳史 (株式会社On-Co代表取締役)
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/sakasama">https://readyfor.jp/projects/sakasama</a>
④目標金額	500万円 (クラウドファンディング：250万円、マッチングギフト：250万円)
⑤公開期間	11月13日(水)～12月26日(木) 23時 (43日間)
⑥資金使途	WEBサイト構築費用 など
⑦活動場所	愛知県



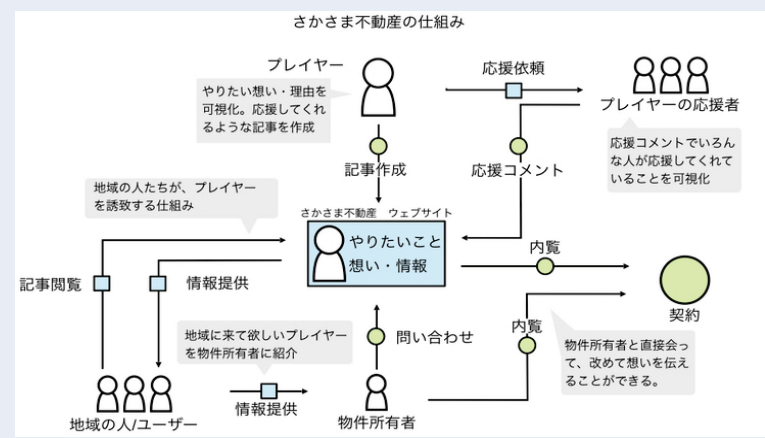
2040年には日本全体でおよそ1200万戸が空き家になると言われていますが、国土交通省の空き家に関するアンケートによると(出典：国土交通省国土計画局作成) 空き家を貸している大家さんは全体の10%未満、空き家を持っているのに貸さない理由は大きく3つあると言われています。

①時々利用する ②仏壇などが置いてある ③老朽化して人が住める状態にない

このような状況のなかで、貸す側の心理的ハードルを下げるには、入居者がどんな人で、どんなことをしたいのかが事前にわかること、そして、顔の見える関係を作ることが重要です。

そこで、本プロジェクトでは、想いのあるプレイヤーと大家さんをつなぐサービス「さかさま不動産」本リリースに向け、WEBサイト構築等を実施。WEB上に地域で何かやりたいことがあるプレイヤーの想いやアイデアを記事にして公開することができる状態を目指します。

このプロジェクトは若者の挑戦を可視化し、応援できるようにするためのプロジェクトでもあります。挑戦のフィールドを若者に作ること。日本全国で課題となっている空き家問題を解決すること。この2つを結びつけるための仕組みです。



【採択理由】 空き家の増加は景観の悪化や悪臭など衛生面の懸念もあり社会問題化しています。この問題に対して不動産の持ち主と借り手を「物語で繋げる」という視点が新しく、興味深いと思いました。

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 7

①プロジェクト タイトル	リサイクル事業を加速させ、障がいのある仲間たちの雇用機会拡大へ
②実行者名	松下敦士 / 酒見真一 (障がい者就労支援あるく・カラフル)
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/challenged-recycle-car">https://readyfor.jp/projects/challenged-recycle-car</a>
④目標金額	240万円 (クラウドファンディング：120万円、マッチングギフト：120万円)
⑤公開期間	11月13日（水）～12月26日（木）23時（43日間）
⑥資金使途	車両購入費用 など
⑦活動場所	愛知県

**回収から移動販売まで**

チャレンジドと地域をつなぎ駆け回る

**リサイクル& コミュニティカー構想実現へ！**

READYFOR SDGs × 中部電力


障がい者就労支援施設「あるく・カラフル」では、3R「リユース、リメイク、リサイクル」事業を通して、それぞれの障がいの特性に合わせた作業を業務化、障がい者雇用機会の創出と就労支援を行ってきました。

当団体では、今後さらに進む高齢者の増加に伴い、生前の身辺整理などリサイクル（資源の再利用化）需要が伸びると考え、リサイクル需要を障がい者の雇用促進・賃金向上の機会に繋げる布石として、今回新たに「リサイクル用品回収兼移動式販売用車両」を購入。活動機会の拡充を目指すべく、車両購入費用およびリメイク費用を調達するプロジェクトを立ち上げました。

プロジェクト終了後は、購入した車両を使い、地域の福祉イベント等の出店回数を増やししながら、これまで以上に地域の方々との交流を促進させ、活動範囲を広げていく予定です

**【採択理由】** リサイクル事業などを通じて障がい者の雇用創出や就労支援を行っている当該団体が移動式販売車両の導入により、さらなる雇用促進と雇用する障がい者の賃金向上にチャレンジしている点に注目しました。

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 8

①プロジェクト タイトル	子ども達の未来を育む地域拠点「みんなのお勝手さん」を作りたい	
②実行者名	みんなのお勝手さん代表 井出敏一	
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/okatte3">https://readyfor.jp/projects/okatte3</a>	
④目標金額	310万円 (クラウドファンディング：155万円、マッチングギフト：155万円)	
⑤公開期間	11月13日（水）～12月26日（木）23時（43日間）	
⑥資金使途	ログハウス建築費用、充電設備設置費用 など	
⑦活動場所	愛知県	
⑧プロジェクト 概要	<p>愛知県豊田市金谷町は、付近に自動車関連企業が多く交通の便も良いことから、若い世代が流入をしてきており、全国的にも珍しく人口が増えている町です。しかし、人口が増える一方、既存の地域コミュニティと新たに移住・転居してきた方々との間には接点がなく、地域内コミュニティの希薄化が進んでいます。</p> <p>関係性が希薄化したコミュニティでは、各家庭で起こっている問題がなかなか見える化されず未就学児童への虐待やネグレクトなど、ときに子どもの命を脅かす事態に繋がるケースも少なくありません。</p> <p>そこで当団体では、子どもたちが集い、住民との交流を通して学ぶことのできる地域拠点「みんなのお勝手さん」をつくります。「みんなのお勝手さん」は、住民が集い、そして子どもたちを地域全体で育てる、古き良き日本の伝統を現代的にアレンジしたコミュニティを目指します。</p> <p>今回のプロジェクトでは町の寺子屋としての三日月ログハウス、防災拠点としてのV 2 H(※)システムを設置します。ログハウスは、都市と山村が共存する豊田市の立地を活かして地域材を活用して作り、防災拠点は車のまちである特性を生かした取組です。</p> <p>※V 2 H(Vehicle to Home)...電気自動車に蓄えられた電力を家庭用に有効活用すること</p>	
【採択理由】	<p>まちの木工職人と子どもたちの交流、絵画教室の開催など地域の世代を超えたコミュニケーションスペースの創出と防災拠点を兼ねるものであり、当該地域にとって意義のある取り組みであると思いました。また、間伐材を有効利用することで、森林保護につながることも期待しています。</p>	



# 別紙：採択したプロジェクトの概要 9

①プロジェクト タイトル	異なる背景を持つ子供たちが交流し、学び合うことの出来る環境を
②実行者名	中村 和世 (ローレンシャンインターナショナルスクール校長)
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/kodomomazemaze2">https://readyfor.jp/projects/kodomomazemaze2</a>
④目標金額	300万円 (クラウドファンディング：150万円、マッチングギフト：150万円)
⑤公開期間	11月13日(水)～2020年2月10日(月)23時(89日間)
⑥資金使途	サイト運営費用 など
⑦活動場所	愛知県



⑧プロジェクト 概要	<p>地方都市では人口が集中する一方、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が増えたことで、地域コミュニティの希薄化が助長。例えば、「児童虐待」や「ネグレクト」「親子関係の悪化」といった子どもを取り巻く課題の見える化が難しくなり、ときに子どもの命を脅かす課題が見過ごされ、悲しい事態を招いてしまうこともあります。</p> <p>そこで、当団体では「子どもたち同士が安全な環境のなかで繋がることができる場をつくりたい」と考え、2019年5月より、家庭環境や貧富の差にかかわらず、さまざまなバックグラウンドを持つ子どもたちが、PCやスマートフォンから簡単にアクセスして交流することができる場所として教育SNS Edmodo（エドモド）を活用した「こどもまぜまぜプロジェクト」を開始しました。</p> <p>テスト版開始からおよそ半年。本プロジェクトでは、プラットフォームの継続的な運営を目指して、子どもたちが安心して使えるように管理体制を強化します。</p>
---------------	--

【採択理由】	育児放棄やいじめ、不登校などの問題を抱えている子どもたちのセーフティネットになる取り組みであると期待しています。また、SNSを活用したオンライン上のプラットフォームなので、誰でも、どこからでもアクセスできる点が良いと思いました。
--------	--

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 10

①プロジェクト タイトル	●生き方見本市TOKAI ● 千差万別の〈生き方〉に出会おう。	
②実行者名	生き方見本市TOKAI実行委員会	
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/ikikatatokai">https://readyfor.jp/projects/ikikatatokai</a>	
④目標金額	200万円 (クラウドファンディング：100万円、マッチングギフト：100万円)	
⑤公開期間	11月13日（水）～12月26日（木）23時（43日間）	
⑥資金使途	イベント運営費 など	
⑦活動場所	中部エリア全体	
⑧プロジェクト 概要	<p>さまざまな変化が想定される未来において、わたしたちが最も大切であると考えるのは千差万別である人々の「生き方」、そしてそれを獲得するための挑戦と努力です。普段の生活では見えづらい個人の「生き方」をお互いに発見し、語り合う場をつくることで、未来への希望につなげたい。</p> <p>わたしたちは、東海エリアの「生き方」をよりたくさんの人と共有するため、2020年2月8日、中部エリアで開催される生き方見本市 TOKAIの開催を目指します。</p>	
【採択理由】	<p>さまざまなライフスタイル、仕事、経験をしている方をゲストに迎え、これからの「生き方」について考える交流の場であり、ここから中部エリアをより良くする・人を活性化させる発想が生まれることを期待しています。</p>	

# 別紙：採択したプロジェクトの概要 11

①プロジェクト タイトル	食べて遊んで、繋がる地域の縁。こども食堂で“多世代交流”を
②実行者名	食べる・遊ぶ・笑うこども食堂 実行委員会
③URL	<a href="https://readyfor.jp/projects/taberasowara">https://readyfor.jp/projects/taberasowara</a>
④目標金額	700万円 (クラウドファンディング：350万円、マッチングギフト：350万円)
⑤公開期間	11月13日（水）～2020年1月27日（月）23時（75日間）
⑥資金使途	イベント開催費用 など
⑦活動場所	中部エリア（三重、愛知、長野、静岡）



⑧プロジェクト 概要	<p>こども食堂を「子どもたちの貧困」という社会課題に対するアプローチだけではなく、「高齢者の生きがい」「共働き世代の支援」「子育て支援」など多くの地域課題に対する包括的アプローチに繋がる交流拠点へと押し上げるために。本プロジェクトでは、こども食堂支援をおこなう「NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」と、「東京おもちゃ美術館」が協同し、全国各地のこども食堂におもちゃの専門家を派遣。おもちゃのプロを巻き込んで、子育て世代の参加促進や多くの方々が子ども食堂を訪れるきっかけづくりを目指します。本取り組みは、中部地域からの実施決定しました。</p> <p>「すべての子や地域住民がアクセスできる」ということが地域全体で浸透していくために、1箇所ではなく、“地域”で取り組んでいるということが、より効果的な認知拡大と理解促進になれば、と思っています。</p> <p>こども食堂の運営を続けるために、「地域の連携」は欠かせない課題です。こども食堂と自治体や地域住民との連携だけでなく、地域と地域がこの取り組みを共有し、連携していく事例をまずは中部地域で作り、全国へ広げる一步を目指します。</p> <p>詳細) 2020年2月から4月、三重県（太陽の家）、愛知県（わいわい子ども食堂）、長野県（にっこりひろば）、静岡県（おたまちゃん食堂）の中部エリア4県等で開催。</p>
【採択理由】	こども食堂は「貧困の子どもたちに対する食事のサポート」から「地域の人々が集まる交流の場」となりつつあります。これによって「子どもたちの貧困」だけでなく、「高齢者の生きがい」「共働き世代の支援」「子育て支援」などの様々な社会課題を包括的に解決することにつながると期待しています。